

平成18年度

《第2回》

国語

時間50分、100点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これまでのあらすじ……そよぎと知里は、幼い頃に出会っていたが、七年後、思いもよらず再会した。再会の時、そよぎは知里に対して「窓ガタン」という冷たい態度をとってしまった。そして、出会っていたことを忘れていた知里は、そよぎから七年前と今を結びつける大切な「ひみつ」を聞く。

「そのときから、あたし、悲しいことやさびしいことがあると、あの林と、へんてこな顔でわらわせしてくれたロータを①思い出していた。七年もたつうちに、いつのまにか、それがどこの林なのか、わからなくなっていたけれど、とにかく、さびしい時は、林の中のロータを、胸のおくの方からひっぱり出していた。そうすると、幸福な気持ちになれたから。そして、きめていたの。いつか、あそこにかえるんだ。ロータに会うんだ、って」

あたし、なんていったら、いいんだろう。

「……で、先月、母さんの話をきいたとき、あたしの中で、いろいろなことがつながつたの。林も、ロータも、なにもかも。あたし、けっこう、せつぱつまつた気持ちでここに来た。おじいさんに会いに、なんていうのは、カツコづけ。ほんとは、父さんや母さんや、自分のことがいやになって、だけど、どんなにいやでも、それは、あたしの父さんだし、母さんだし、あたしはあたしなんだし……」

そよぎ……。胸の中でよびかけるのがせいっぱいだった。

「どうして、あたし、父さんに選ばれなかったんだろう、すてられたんだろうとか、どうして母さん、あたしをおばあさんに会わせてくれなかったんだろうとか。そんないろいろな気持ちで、ごちゃごちゃになって、どうしようもなく、とにかく、あの場所に会いたかったの」

あの場所。ロータと走った、春の林の中。

「無理とわかっていても、もういちど光のさしこむ林の中の、自分に会いたかった。ロータと、あのときのように、けらけらわらいあいたかった。そしたら、いやなことが全部なくなるような気がして……」

④胸がずきんとした。よくわかるよ、そよぎ。あたしにはすごくよくわかる。

「そしたらさ」

さわさわっと、風が吹きぬけていった。そよぎの、ひと月ぶんのびた髪かみの毛がやさしくゆれる。

「なんと、あたしが会いたくてたまらなかったあの日の⑤ロータは、またもや、イリちゃんいりちゃんとあらわれた、というわけ。それも目で合図しあつたりして、ものすごくなかよさそうに」

そうだったんだ、あの日！

「あたし、もうれつにがっかりして、それから頭にきたの。二人に罪がないってことなんだけど、あたしには、怒る理由は十分にあつたの。ゆるせなかったの。ね、そういうわけ」

そよぎは、直球で勝負した日の約束どおり、「ひみつ」をちゃんと教えてくれた。

想像もできなかった。そよぎの、そんな遠い昔からの気持ちで、あの日の「窓ガタン」にこめられていたなんて。

あの時、あたしは一方的に、そよぎにひどいことをされたと思っていた。だけど、胸の中の白い雲をしぼませられたのは、そよぎの方だったんだ。

「ごめんね、そよぎ」

「知里があやまるの、へんだと思う」

「うん、そうだけれど」

「そのかわり、あたしも、あの日の態度、」
「わかった」

あたしたちは、顔を見合わせて、うなずきあった。

—— 中略 ——

「それからさ……」

「うん？」

うまくいえるかな。どきどきする。でも、いわなくちゃ。

「この間、そよぎ、自分がいやだっけっていったよね。なんのために生まれてきたんだろう、って考える、っていったよね。いまでもそう思っている？」

「う……ん、ほんとうのことというと、しばらく、わすれていた。毎日たのしかったから。でも、家に帰ったらまた、考えちゃうかもしれない。なんで？」

毎日たのしかった、って、ミルズさんとの生活のことだと思っけど、^⑧その中の、ほんのちよびつとでも、あたしがまじっていたら、うれしい。

「あのさ、もし、もしもだけど、また、^⑨そのこと考えてしまったら、思い出して。あたし、思うんだ。そよぎが生まれたのは、そよぎがいつぱい、うれしいことに会おうためだよ。だれかに選ばれたとか、役に立つとか、そんなことのためじゃなくて」

そよぎが、びっくりした顔で、あたしを見ている。でも、いいかけたことだから、いつてしまわなくては。

「人間の赤ちゃんも、子犬も子ねこも、いつぱい、いつぱい、うれしいことを経験するために生まれてくるんだよ。稜ちゃんちのエルもベルも、うちのトントとハリーもすてられていたけれど、いまは、しあわせだと思う。うれしいことが積みかさなっていく、それが、一ばんだいじなんだと思う」

最後のところ、^⑩早口で一気に入った。めちやくちやに緊張している。

そよぎは、だまっただまま。

もつとちゃんとしたこと、いえれば良かった。でも、いまのあたし、^⑪一所懸命考えたけど、こんなことしか、いえない。自分がなんのために生まれたのか、いまはまだわからない。大きくなつて、なにをしたいかわからない。

それにしても、すてられたなんて、いわなきやよかった。犬やねこといっしょにしちや、まずかつたかな。

「あのさ、気にしないで。いまの……」

「ありがと、知里。あたし、また、へんなふうに考えそうになったら、^⑫いまの知里の言葉、ぜったいに思いたす。それに……、あたしのために考えてくれて、いつてくれた知里のこと、一生、わすれないから」

そよぎは、暴投ぎみの直球も、ちゃんと受ける名キャッチャーだ。

(矢部美智代「木もれ日のむこうに」より)

問一 傍線部①「思い出していた」とありますが、これを例えて言いかえている部分を、問題文中より二十字以内で探して、始めの四字を抜き出して示しなさい。

問二 傍線部②「けっこう、せっぱつまつた気持ち」とありますが、これをはっきりと述べている一文を問題文中より探して、始めの四字を抜き出して示しなさい。

問三 傍線部③「カッコづけ」とありますが、ここでは「そよぎ」のどのような気持ちを表していますか。次の記号の中から、ふさわしいものを選んで記号で答えなさい。

- ア いやだった イ しかたがなかった ウ うそだった
エ 楽しかった オ 幸せだった

問四 傍線部④「胸がずきんとした。よくわかるよ、そよぎ。あたしにはすぐよくわかる。」とありますが、その時の「知里」の気持ちとしてふさわしいものを、次の記号より選びなさい。

- ア あたしのことを本当はいやだと思っていたなんて。
イ あたしもいやなことばかりで悲しくて仕方ない。
ウ いやなことを全部わすれてなくしてしまいたい。
エ 幼かった頃のように、ロータとわらいあいたい。

問五 七年前の傍線部⑤「ロータ」と⑥「イリちゃん」は、今、どのように呼ばれていますか。それぞれ問題文中より探して、四字以内で抜き出しなさい。

問六 傍線部⑦「怒る理由は十分にあったの。ゆるせなかったの。」とありますが、その理由がはつきりと示されている一文を探して、始めの三字を抜き出して示しなさい。

問七 には、どのような言葉が当てはまりますか。「そよぎ」の気持ちになって、ふさわしいものを、次の記号より選びなさい。

- ア わすれてしまうから イ あやまっておきたいの ウ あやまらないからね
エ ゆるしてあげる オ ゆるさないからね

問八 傍線部⑧「その」は何を指していますか。問題文中より十字以内で抜き出しなさい。

問九 傍線部⑨「そのこと」とは何を指していますか。問題文中より抜き出して答えなさい。

問十 傍線部⑩「早口で一気に入った。」とありますが、これを例えて言いかえている部分を、問題文中より七字で探して、抜き出して答えなさい。

問十一 傍線部⑪「いまの知里の言葉」とありますが、その中で、もっとも重要な言葉は何ですか。問題文中の言葉を用い、「言葉」で締めくくる形式にして、三十字以内で説明しなさい(句読点は含みません)。

二次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

言語というのは人間関係のないところでは流れ出なくなってしまう。蛇口がすぐに詰まるんです。ところが、生活子どもが実感している場合には、「ぼくはこういうことをしたよ」「ぼくはこう思っている」とすぐに書いて、ほかの人にそれを報告できる。自分が全体をどうとらえているかが、じつに論理的に出てきます。それが「書くことのいちばん基本」であり、本当に単純なことでもあります。しかし、「じつさき」には、それができないことが多い。

教えられたことだけを書くなら、これはいくらでも書ける。教えられたこと以上にはいかなければ。でも。そうではなく、自分自身の感じたことなり思想なりを書くとなると、教えられたことをくり返すだけならいくらでも書けた子どもも、とたんにことばが出てこなくなってしまう。これは、驚くべきことです。

みずから、積極的にものを書くということとは、ある決められた本を教えこんで、それについて書きなさい、というだけの関係からは生まれてこない。いわゆる読み書き以外のところからエネルギーを汲みとって、教えこまれた文字や語法を使って、自分のなかから自然に突きあげてくる力によって書くという作業がなければ、書く本人にとって楽しいものは出てこない。これはごくあたりまえなことだと思ふのです。(中略)

ことばを求めながら、じつは、ことばがなくなるほどの力強い感動を求めてもいる。そのとき生じる空白を何かで埋めなければならない。そういう抗いがあるから、子どもにとってその瞬間が忘れられないのです。

この気持ちを表現するにはどういう言葉があっても足りない、と思うほどの出来事が生じたとします。苦闘してやっと自分の気持ちに近いことばを見つめることができたとすれば、そのときはたしかに詩人になっているわけです。

一方では、ことばの論理性をどこまでもつきつめて、自分が言おうとすることは徹底的に言うことを追求すると同時に、いくら追求しても表現できないほどの大きな何かに包まれないと願望する。その二つのことがたえず必要で、どちらが欠けても、結局、両方ともだめになるといふことです。

たとえば、ぶたいで役者が肩の上げ下げだけで何か決定的なことを伝える場合がある。それが無量の思いを表現するにいたるまでには、ことばのやりとりが丁々発止と積み重ねられてきて、ドラマの建築物が作り上げられているからです。それで、最後の瞬間に役者が肩を落とすだけで、その建物全体と匹敵するくらいの大きな感動を生み出すことができるのです。

そこまで行きつくには、狭義の意味でのことばを正確に積み上げていかなければ、絶対だめだと思ふのです。ことばにならないところに行きつき、それを浮き彫りにするためには、ことばのすべてを正確に駆使していくことだと思ふのです。もちろん、ここで言っていることは、文学的な、あるいは芸術的なことばの使い方に主として重点をおいています。法律や社会科学の分野では、ことばで表現できないものを追いつめるということばは、それほどにはないわけです。相手にことばで説明し、論理的に完全に理解できるようにことばの使い方をしなければいけない。ですからことばのなかに、いろいろの傾きがあると思ふいます。

しかし、小学校や中学校の子どもたちの場合には、ことばを使う感動ということにいちばん基本をおくべきです。そうでないと、それからさきの論理的な言語生活も豊かになりません。たとえば、お医者さんになる勉強をして、医者資格をとって開業したとします。それで患者がくる。ところが、

患者に対して冷静に論理的にだけしゃべる医者になったら、患者は治る病氣も治らなくなる。だから、医者にとっても子ども時代の言語体験というものが非常に大事だと思うのです。

子どものときにいじめられっこだった医者は、弱者に対するいたわりがあるかもしれないし、逆にまた、自分の過去に対する怨念によつて弱者に対してもきびしく当たるかもしれない。たえず両面がありうると思います。その人の過去から現在にいたる歴史というものが全部そこにかかわってくると思うのです。だから、言語生活というのは、その意味で全生活にわたるわけです。医者と患者の例でいえば、医者が患者に対してどういうひとことを言うかによつて、よくなるかもしれない病氣がだめになるということがあるとすれば、その決定的に重要なひとことを、たんに論理的にだけ言うことでよいのかといえ、けつしてそうではないわけです。

医者というのは論理的な職業だと思いますが、その論理的な職業を生かすためには、論理だけではなくて、感情を豊かに表現できることばづかいができなければ、本当の医者としての資格がないでしょう。法律家の場合にも同じことがいえると思うのです。弁護士とか検事のことばというのは、論理をつきつめていく仕事ですから、論理的なことばだけで、すむかもしれない。にもかかわらず、けつしてそうではなくて、法廷において最終的のものを用いるのは、論理的プラスなにかです。そのプラスなにかというのは、ひじょうに重要だと思えます。裁判官の心証を形成する場合の、最期の決め手というのは、たんなる論理だけではない、とぼくは思います。

(大岡信『日本語の豊かな使い手になるために』)

※ 抗 い・・・言い争い。反抗。

※ 丁々発止・・・たがいはげしく打ち合うようす。

※ 心 証・・・裁判官が事件をあつかっている間に証拠によつて得た確信。

問一 二重傍線部①く⑤の漢字をひらがなに、ひらがなを漢字に直しなさい。

問二 傍線部1「書くこと」のいちばん基本」とありますが、子どもたちにとつての書くことはいちばんの基本はどのような場合であると筆者は言っていますか。抜き出して答えなさい。

問三 傍線部2「積極的にものを書く」について、次の問いに答えなさい。

(一)「積極的」の反対の意味を持つ言葉を次から選びなさい。

ア 一般的 イ 現実的 ウ 具体的 エ 消極的

(二)「積極的にもものを書く」とは、どのように書くことですか。当てはまるものを次から選
びなさい。

ア 自分自身の感じたことなり思想なりを書くこと。

イ 自分のなかから自然に突きあげてくる力によつて書くこと。

ウ 教えられたことだけを書くこと。

エ 教えられたことを繰り返し書くこと。

問四

傍線部3「ことばがなくなるほどの力強い感動」とありますが、この感動をことばにできた
とき、子どもはどのような能力を身につけることができるかと筆者は言っていますか。当て
はまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 詩人

イ 弁護士

ウ 医者

エ 教師

問五

傍線部4「決定的なことを伝える」とありますが、役者は観客に何を伝えようとしているの
ですか。文章中から、五文字で抜き出しなさい。

問六

傍線部5「決定的に重要なひとこと」とありますが、そのことばの内容は、何に左右されて
いると筆者は言っているでしょうか。当てはまらないものを次の中から選びなさい。

ア 子ども時代の感動的な言語体験

イ その人の過去から現在にいたる歴史

ウ 立派な医者になるための多くの学問

エ 弱者に対するいたわりと過去に対する怨念

問七

傍線部6「法廷において最終的にもものをいうのは、論理的プラスなにか」とありますが「な
にか」を指している部分を一七字で抜き出しなさい。